

みずき

Mizuki Dayori

便り

NO. 24

2016.12

特別地方公共団体
神奈川県内広域水道企業団 広報誌

守ろう水源の環境

森は水のふる里だ！

特集

水道の仕組みを知ろう④



特集 水道の仕組みを知ろう④

森は水のふる里だ! 守ろう水源の環境

みずき便りでは「水道の仕組み」をシリーズで取り上げ、ダムに貯えられ、取水施設で取り入れられた川の水(原水)が浄水場で水道水へと生まれ変わるまでを紹介してきました。

今回は企業団の大切な水源の1つ、丹沢湖(三保ダム)周辺の森を訪ね、そもそも水はどのように生まれるのか、また、その水を守るにはどうすればいいのかを考えます。参加してくれたのは、伊勢原市立高部屋小学校4年1組・3組の代表3名と家族のみなさんです。

案内してくれた人



神奈川県自然環境保全センター
研究企画部 研究連携課
主任研究員
内山 佳美さん



神奈川県自然環境保全センター
研究企画部 自然再生企画課
主事
吉澤 亮輔さん



行ったところ
上ノ山地区(山北町世附)…水源林整備
ヌタノ沢(山北町中川)…水量の調査

神奈川県内広域水道企業団は、「地球環境の保全」を重要施策の1つとしています。安全で良質な水道水を供給するため、良質な水を安定的に取水できるような水源環境を保全する必要があります。

神奈川県では、良質な水の安定的確保を目的として、平成19年度から「かながわ水源環境保全・再生施策大綱」に基づき、「かながわ水源環境保全・再生実行5か年計画」を策定し、県民のみなさまにご負担いただいている水源環境保全税を活用して水源環境保全・再生に取り組んでいます。今回、神奈川県自然環境保全センターの方々に具体的にどんな取り組みをしているか教えていただきました。

《水道企業団ニュース》

阪神水道企業団と人材交流

当企業団は、災害時の連携強化などを目的に阪神水道企業団と人材交流を行っています。



阪神水道企業団は、兵庫県の神戸市・西宮市・芦屋市・尼崎市へ水道水を供給している団体です。今年は、6月から8月にかけて阪神水道企業団から、10月から12月にかけて当企業団から互いの職員を派遣しています。業務や施設の違いを身をもって学び、互いの業務の改善に結びつけていきます。

酒匂川水系水源監視モニター施設見学会開催

飯泉取水管理事務所(小田原市)では、平成9年度から地域の住民の方々に川の監視をお願いし、川の状況を迅速に判断するための情報として活用しています。今回は、そのモニター員の方々に、小田原市の水道の歴史や水道水の品質を守るための取り組みなどを学んでいただきました。安全な水道水を守るためには、川の状況の監視が欠かせません。今後もみなさまのご協力をお願いいたします。

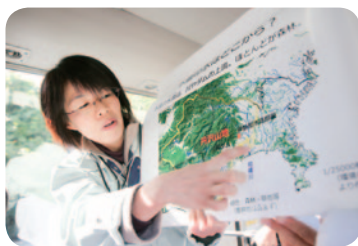


菊名ウォータープラザまつりに出展

当企業団の供給先である横浜市水道局主催の「第9回菊名ウォータープラザまつり」に出展しました。横浜市港北区の菊名周辺には、当企業団の西長沢浄水場の水道水が届けられています。当日は、テーマの水源林にちなんで間伐材を使用した鳥の巣箱作り体験や、川掃除の業務体験ゲームなどを用意し、多くのお子さんに楽しんでいただきました。当企業団の施設を通じて、県西部を流れる酒匂川から横浜の菊名まで水道水が届いていることに、多くの来場者が驚いていました。



手入れ不足とシカによる影響、神奈川の水源の森が抱える大きさ



1 バスの中で「水源としては、山に森があって、森の土を守る下草もあることが大事」という山さんの話を聞く。



2 企業団の水源の1つ丹沢湖は昭和53年の三保ダムの完成によってできた。貯水量はおよそ6,490万㎡(東京ドーム約52杯分)。



3 山北町世附の上ノ山地区で、水源林整備の現場を見学。森の手入れやシカ対策の話聞く。



4 左は手入れされず暗い森。右は間伐など手入れが行き届いた森。光が差し込み、下草が良く育っている。

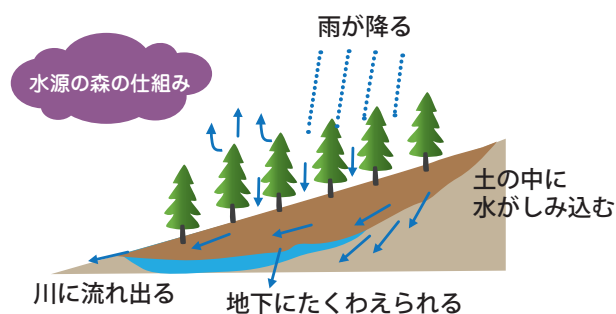
リポーター



4年1組 山平 翔太さん 津田 愛花さん 4年3組 伊藤 禅さん

水と森はどんな関係があるんですか？

内山 森に降り注いだ雨は、ゆっくりと地中にしみ込み地下に貯えられます。やがて川に流れ込み、水道水などになって私たちの元に届きます。森は水のふる里なんです。(イラスト参照)



神奈川の森はどんな状況なのか？

内山 大きな問題が2つあります。1つは人工林(人が植えた森)で手入れがされていない森が多いこと。もう1つはシカによる植物への影響(※)。この2つへの対策が急がれています。

なぜ、手入れが必要なのか？

内山 土も含めた森全体の役割は雨水を蓄えることです。下草(地面を覆う背丈の低い植物)も大きな役割を果たしています。手入れ不足の森は木が混み合い、光がさえずられて下草たちが育たないのです。

シカがなぜ問題なのか？

内山 シカが木の若芽や植物を食べてしまい、地面がむき出しの状態になってしまうからです。

なぜ、植物がないといけないのか？

内山 下草がないと降った雨が地下にしみ込まず一気に流れるため、森の保水能力(水を貯える力)が低下してしまいます。さらに森を育てる大切な土も流れ出し、川や湖にごった水が流れ込むという悪循環に陥ってしまうからです。

どんな対策があるんですか？

内山 間伐(木の本数を減らす)や枝打ちなど森の手入れをすることに加え、シカによる植物への影響を極力抑え、シカと共生する道を探っています。この2つを組み合わせることで森の植物を増やし、土が流れないようにすることです。神奈川県では平成19年度から、県民のみなさまにご負担いただいている水源環境保全税を活用した水源を守る取り組みが始まりました。暮らしに欠かせない水のために水源の森が大きな役割を果たしていることを、もっと多くの方に知ってほしいですね。

※シカは本来、山の高い所ではなく人里に近い所に生息していたが、徐々に生息域がせばめられ丹沢などに移動してきた

企業団 NOW

～安全・安心な水道用水の安定的な供給に向けて～

国際会議に出席

オーストラリアのブリスベンで開催された国際会議に、当企業団の職員が出席してきました。

「水未来の形成」をテーマに、世界各地から約5000名が参加し、上下水道や水環境分野に関する講演、論文発表などが行われました。会議後は、会場となったオーストラリアの水道施設見学に参加し、オーストラリアならではの大規模な海水淡水化施設を調査、日本を代表する水道企業団の一つとして世界の水問題に少しでも貢献できるよう、情報収集を行いました。



優良工事表彰式

当企業団では、良質な工事の実施や技術向上を目的として、前年度に完了した工事の中から、模範となる特に優秀なものを選び表彰しています。今年度は、株式会社エス・ケイ・ディが施工した「飯泉ポンプ場沈砂池改良及び場内整備工事」を選出しました。水道水は、私たち企業団だけでなく、優れた工事を行う企業のみさんの技術に支えられています。これからも安全な水道水を守る優れた工事が施工されるよう、表彰活動に積極的に取り組んでいきます。



新潟市水道局が訪問

「広域水質管理センター」に新潟市水道局の職員が調査に訪れました。川の水はその地域ごとに性質が異なるため、各水道事業体はそれぞれ浄水処理のノウハウを持っています。今回、当企業団と新潟市の水質向上の取り組みに関し、互いに先行する事例の情報交換を行いました。このように全国各地の水道事業体と情報交換し、互いの技術の向上に役立てています。今後とも当企業団の取り組みが日本の水道全体に活かされるよう引き続き努力を続けていきます。



な2つの問題を解決するための取り組み・研究が始まっている。

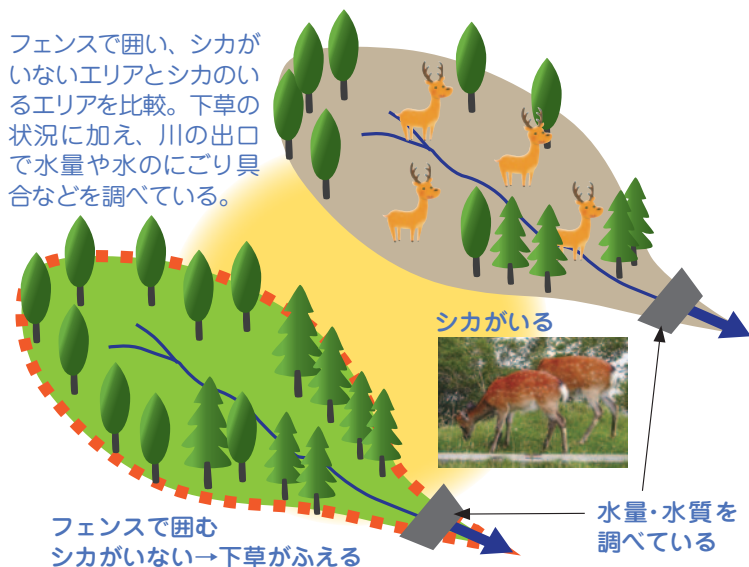


5 右はシカ避けのフェンス。左はフェンスでシカの影響を少なくすることが水量にどう影響するかを調べる施設(ヌタノ沢・山北町中川)。

6 シカ避けフェンスの外(手前)は、下草がシカに食べられてしまっている。一方、フェンスの内(奥)は下草が茂っている。

7 神奈川県自然環境保全センターの展示室。シカを駆除するだけでなくどうすれば共生できるのかを考えることが大切。

8 質疑応答。水源の森を守る仕事は自然が相手なので勉強の連続。たくさんの人が水や森に関心を持ってほしい、と内山さん。



慣れない山歩きは大変だったけど、いろいろなことを知る事ができた

森は子どもたちの好奇心を刺激する。メモを取る表情は真剣そのもの



企業団が運営する「丹沢荘」で休憩



《子どもたちの感想》

- シカと森と水の関係なんてこれまで知らなかった。学校で友だちに教えてあげたい。
- 森と水、森とシカの関係がよくわかりました。森を手入れすることは、私たちの暮らしにとっても大切なんですね。
- 木の枝が太陽の光に向かって伸びていたり、知らないことがいっぱいあった。山登りが楽しかった。

《お母さんたちの感想》

- ★普段何気なく使っている水ですが、それを守るためにたくさんの人が働いたり、研究したりしているんですね。
- ★森と水、森とシカの関係など、自然の適切な循環の大切さをあらためて感じました。
- ★普段入れない山に入っているいろんなことを知りました。実際にいつも飲んでいる水の水源を見て、水への思いを新たにしました。



神奈川県自然環境保全センター：神奈川の豊かな自然環境の保全と再生に取り組んでいる施設です。ニホンジカやツキノワグマなどの神奈川にすむ動物たちのはく製や、環境保全・再生に関するパネル展示を見ることができ、四季折々の動植物を観察できる「自然観察園」などがあります。
〒243-0121 神奈川県厚木市七沢657 ☎046(248)0323
開館時間：通常 9:00～16:30 休館日：月曜日(祝日の場合は開館)、祝日の翌日(土、日、祝の場合は開館)、12月28日～1月4日

神奈川 保全センター

検索

20年かけて水源環境の保全・再生を

神奈川は、水源環境を保全・再生するため、平成19年度以降の20年間の全体計画と5年ごとの実行計画を定め、着実に効果的な取り組みが行われています。平成29年度から「第3期かながわ水源環境保全・再生実行5か年計画」が始まり、平成33年度までに、「水源の森林づくり事業の推進」や「土壌保全対策の推進」など11の特別な対策を取り組んでいきます。

☎045-210-4352 (神奈川県水源環境保全課)

かながわ 水源環境

検索



水源環境保全・再生
イメージキャラクター
「しずくちゃん」



水の大切さを学べるように

子どもが学校で「みずき便り」を貰ってきました。職業体験やフェスタ、防災フェアなどが行われていることを知りました。これからも子どもが水の大切さについて学べるような体験などをやりたいと思います。 M.K (横浜市鶴見区)

防災特集を読んで 備えの大切さを感じた

災害はいつ起こるかわかりません。普段になにもなく生活をしていると忘れてしまいがちですが、今回あらためて備えの大切さを感じました。 S.N (横浜市港北区)



横浜市水道局

「横浜市の水源地 道志情報館 水カフェどうし」がオープン！

横浜市水道局キャラクター
はまビヨン



道志村の魅力をアピールします

横浜市と友好交流協定を結ぶ山梨県道志村のアンテナショップ「横浜市の水源地 道志情報館 水カフェどうし」が、9月30日（金）に横浜市保土ケ谷区の洪福寺松原商店街にオープンしました。

横浜市は明治30（1897）年に道志川から取水を開始し、大正5（1916）年に山梨県から道志村内の山林を購入し、水源林として管理・保全を始めました。以来100年にわたり、横浜市と道志村は、水を通じて固い絆で結ばれています。

「横浜市の水源地 道志情報館 水カフェどうし」では、水源地道志のPRコーナー、移住・定住紹介コーナー、クレソンをはじめとした村の特産品販売コーナーなどを設け、水源地道志村の魅力をアピールする総合拠点となっています。ぜひ、お越しください。

水カフェ どうし

検索



川崎市上下水道局

災害相互応援訓練を実施しました

川崎市上下水道局
キャラクター
ウォータン



注水訓練

川崎市上下水道局では、10月27・28日に「19大都市水道局災害相互応援に関する覚書」に基づき、静岡市上下水道局と飲料水の供給、施設の応急復旧等に必要な資機材の提供など、災害相互応援訓練を実施しました。

この訓練は被災想定都市を交互に入れ替え、平成25年度より年1回開催しており、今年度は川崎市を会場に開催しました。

ディスカッションでは、熊本地震での応援活動の経験や反省点を共有し、自分たちが被災した場合や次に応援活動を行う場合等を想定して、積極的に意見交換が行われました。

川崎市 災害相互応援訓練

検索



神奈川県企業庁

寒川町にある水道記念館で
冬のイベント開催中！

県営水道キャラクター
カッピー



毎月楽しいイベントを開催中！

神奈川県営水道の創設期から送水ポンプ所として活躍していた館内には、水を使ったゲームや水道の歴史が展示されているほか、水の広場では、広い芝生の上でお弁当を食べることもできます。

平成28年12月1日から25日までは、毎年人気のクリスマスカードを作って、館内のツリーに飾るイベント（無料）を行います。お気軽にお立ち寄りください。

水道記念館

住 所 寒川町宮山4001

開館時間 9:30～16:30

電 話 0467-74-3478

休 館 日 月曜日（ただし月曜日が祝日の場合はその翌日）、年末年始（12月29日から1月3日）、2月第4週の月曜日から金曜日

入 館 料 無料

水道記念館 寒川町

検索



横須賀市上下水道局

水のポスター
すばらしい作品が集まりました

横須賀上下水道
イメージキャラクター
アクアン

横須賀市上下水道局では、子どもたちに水への関心や親しみを持ってもらうために、毎年夏休みの課題として市内在住・在学の小学生を対象に「水のポスター」を募集しています。今年は44校、3,586点の応募がありました。

その中から、学年ごとに最優秀賞1点、優秀賞3点、佳作10点を選び、その作品を市内ショッピングセンターなどで展示を行いました。今後は横須賀市上下水道局の広報活動などにも使用させていただく予定です。

なお、最優秀賞、優秀賞についてはホームページで公開しています。

どの作品も、子どもたちの一生懸命さが伝わってくるすばらしい作品ばかりです。ぜひご覧ください。



表彰式



ポスター展

横須賀 水のポスター

検索

平成27(2015)年度

決算の概要

■構成団体への供給水量

1「年間総供給水量」

506,703,400立方メートル
(東京ドーム約409杯分)
構成団体全給水量の50.9%

2「1日平均供給水量」

1,384,436立方メートル

■重点施策

「安全」「防災」「環境」を
柱とした事業運営

1「安全」

安定した供給体制を持続させる
ための施策

●施設老朽化対策ほか 約76億円

2「防災」

災害に強い用水供給システムを実現
するための施策

●地震対策ほか 約30億円

3「環境」

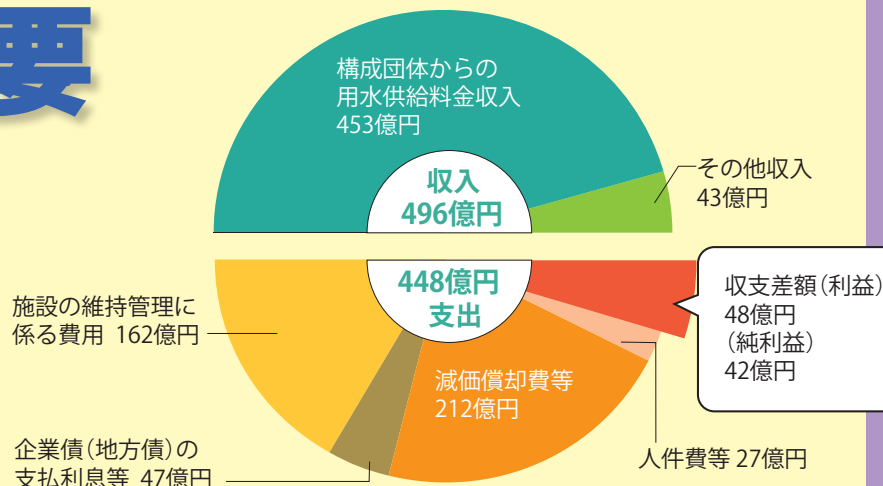
環境に配慮した用水供給システムを
実現するための施策

●再生可能エネルギーの導入

小水力発電設備、太陽光発電設備の
運用(一般家庭が1年間に使う電気の約
700世帯分に相当)

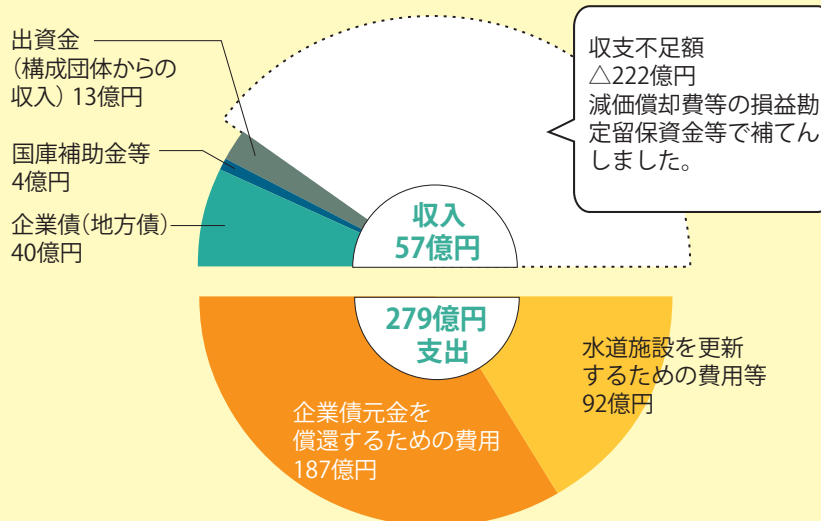
水道水の生産に関する収入支出

収益的収支(消費税込み数値)



施設の建設・改良に関する収入支出

資本的収支(消費税込み数値)



※詳しくは下記神奈川県内広域水道企業団のホームページをご参照ください

「水あれこれトーク」は今回お休みします。

プレゼントコーナー



「みずき便り」読者の中から、抽選で5名の方に企業団オリジナルの「やまなみ五湖のブレンド水」340ml缶1ケース(24本入)をプレゼントします。ご希望の方はハガキ、FAXまたはメールで、住所/氏名/電話番号/年齢/職業を明記の上、下記までお寄せください。その際、今号の内容へのご意見・ご感想も忘れずをお願いいたします。
応募締め切り:平成29年1月20日(金)必着 ※当選者の発表は賞品の発送をもって代えさせていただきます
応募先:〒231-8445 横浜市中区太田町2-23神奈川新聞社クロスメディア営業局内「やまなみ五湖のブレンド水プレゼント」係 FAX.045-227-0765 kokoku@kanagawa-np.co.jp
●プレゼントに関するお問い合わせは ☎045-227-0804 までお願いいたします。



編集後記

今号は、好評の「水道の仕組みを知ろう」の続編、「森は水のふる里だ!」をお送りしました。水源保全に取り組んでいる神奈川県の水源環境保全課と自然環境保全センターの方々とのコラボ企画です。水源の保全について改めて子どもたちと一緒に学ぶことができました。安全・安心な水道水をお届けするためには、私たち水道事業者だけではなく、水源林の保全活動や利用者みなさんのご協力が必要だということに改めて気づかれます。次号は、水の再生についてです。使った水がどのようにして自然に還されるのか子どもたちと一緒に学びます。どうぞお楽しみに。

神奈川県内広域水道企業団とは

三保ダムと宮ヶ瀬ダムに貯めた水を浄水処理し、構成団体を通じて、利用者の皆様に、安全で安心な水道水を供給している「特別地方公共団体」です。

